

## 授業は真剣勝負

### ここで集中できない人は、塾も家庭教師も活かさない!

各教科、それぞれの先生につき、学びが進んでいます。右の写真のように活発に手を挙げ発言する授業や静かに集中を求められる授業、全体の統一を大事にする授業など、形はさまざまながら、いずれも真剣勝負と言えます。

「いつやるの?」「今でしょう!」などという言葉が流行り言葉になっていますが、そんなことは学校では言い尽くされてきましたし、それをいつも生徒には求めてきました。

学習の大事なところをつかんだ生徒は、授業中の取り組みを真剣にしています。聞く、読む、書く、話す・・・さまざまな学習活動をしっかりやっています。ところが、道具を忘れたり、提出物が遅れたりする生徒は、授業の集中度も低く、気の向くことはやれても、少し根気のいる作業やノート整理などを億劫おっくうがって手を抜く傾向にあります。

授業で真剣にやれない人は、どんなに良い教材を使おうが、教え方の上手い人につこうが、できるようにはなりません。なぜなら、「その時、その場で、どうするか」という時間の使い方ができないからです。

「いつやるの?」「今でしょう!」とは、考え方ではなく行動を求めているのです。

### 良い授業を支えるもの《《《

#### 》》その1「チャイム着席」

開始時刻には、ずっと授業そのものに入れることが大事です。休み時間との気持ちの切り替えとして、机や道具を整え、チャイムは座って聞きます。鳴ってから座るようなだらだらの雰囲気は、周りにも迷惑です。

#### 》》その2「きれいな黒板」



黒板は教室の顔です。黒板係や日直は、大事な仕事とわきまえて、鏡のようにいつもきれいにしておいてください。

▼この手の挙げ方。やる気に満ちている。

すばらしい!!

理科の授業で



### お父さん・お母さんへ(9)

#### ほど良き緊張感

授業をはじめ子どもたち(人)が学ぶ場面では、ほど良い緊張感というものが大切です。師に対するまなざし、応対の言葉づかいや態度など、教えていただくのにふさわしいものが求められます。

教師は、たとえ年が若くても教師ですから、子どもたちがなれなれしい態度や言葉づかいをするようなら、大人として窘たしなめなければなりません。

もともと教師は、人を導く重責を自覚し、絶えず研鑽けんさんに努めるべきなのは言うまでもありませんが。